国語科　遠隔学習指導　実践報告

１．学年と単元　　3 年「オンラインで句会～俳句を創り、俳句を味わう～」

２．教材について

⑴教材観：本単元「オンラインで句会～俳句を創り、俳句を味わう～」は、教科書（光村図書）の俳句に関する教材「俳句の可能性・俳句を味わう」とその中に含まれる「俳句を創作しよう」の教材に該当し、鑑賞と表現の両方を扱うものである。「いい俳句はどちら？」という俳句のクイズを楽しみながら、俳句の文学としての特徴やポイントを確認し、その後、句の創作をし、オンライン上で句会をやるという形で行う。鑑賞と表現は表裏の関係であるので、セットでやる方が良いということと、本学年の生徒達は 1 年時から季語・俳句の紹介や句作りを帯単元として継続的に取り組んでいるため、鑑賞と表現の一体化した学習する素地ができているとしてこうした単元を設定した。

今回、遠隔学習で５月にこの単元を実施するに至った主な理由は、

①長い自宅待機の期間が続く中であるからこそ少しでも自分を表現する場を設け、互いに共有させたい。

②遠隔従業であっても少しでも「生徒同士の交流」と「楽しさ」を伴う学習活動を実施したい。

という二つである。①については、遠隔学習では、文法の学習や説明的文章を行っていたので、今の自分を表現するという内容ではなかった。自宅学習期間中の朝礼のアンケートや生徒との電話のやり取りで特別の状況下で生徒達が自分のことを語りたい・表現したいという気持ちが強くなっていることを感じた。そこで負担に感じない程度で「表現する」ことを考えると短い詩形で、すでにこれまでやったことのある俳句は適したものだと思われた。

②については、オンデマンドの遠隔学習自体が、教師からの一方通行的な授業になりやすい面があるが、本校の実施している遠隔学習のシステム Moodle では教師と生徒との間での交流はできても、学習者同士の相互の交流が困難であった。対話や授業での意見交流による学習が、大きな意味を成す国語の学習では、少しでもそれを解消することが必要であった。交流のある授業に近づけ、楽しさを味わえる学びにということを考えた時、互いに無記名で投句し（教師にのみわかるシステムになっている）意見交換できる句会は、ネット上でも個人情報が洩れる心配もなくできる有効なものであった。Moodle のアンケート機能を使って生徒各自が句を送信（投句）→教師が選句用に無記名の清記用紙を編集し、PDF でオンライン上に挙げる→生徒は、オンライン上に挙がっている清記用紙から俳句を選び句の通し番号とコメントを教師に送信する（選句）というやり方である。ネット上であっても、句会で選句するという形で生徒達は他の生徒達の句を深く句を鑑賞することになる。それによって良いところを学んだり、自分自身の表現を見直したり、他の人からいいところを発見してもらったりと相互に、ふり返り、省察する場が設定されることにもなる。選んだ句へのコメントは、句会終了後、一覧にして表示するので、自分の作品に対する他からの意見を共有できるし、同じ句を選んだ場合でもどのような視点や考えで選んだのか、比較しながら見ることもできる。また普通は、クラスごとに 1 クラスの分だけ選句するのだが、今回はシステム上クラスごとの名簿になっていないので、あえて、全てのクラスの分を選句してもらうことにした。ただし中学生に全学年分の 100 句以上の句から、一度に数句に絞って選句をするのは、大変なことであるし、時間もかかることなので、30 句程度ずつに 4 回に分けて選句をしてもらった。選句をするには鑑賞する力が必要なので繰り返しやることで、鑑賞の力も深まることが期待される。遠隔学習でやるからこその機会ともいえるかもしれない。

また、自分自身や学習を省察したり、考えや表現を深めたりすることにもつながるよう Moodle のシ

ステム上でのアンケート機能を活用して、できるだけ生徒達が毎回の授業で自分の声を出していける場を設けることにした。そうしたことが生徒の主体的な学びにつながるであろうし、指導する側として個々の学習者の状況を見取っていくことになると考えられるからである。

⑵　学習の展開

使用した Moodle 上の主なリソース機能：動画（音声入りパワーポイント）・アンケート・PDF ファイル

	主な学習活動	遠隔上の配慮と操作
1	・「どちらが良い句？」 ―いい俳句のポイントを確認しよう！― （句作のためのウオーミングアップ） ・ネット上で「どちらが良い句？」の 5 問クイズに答える。（個人） ・動画により、答えを確認しながら良い句のポイントを押さえる。	・動画の前のタスクとしてPDF によるクイズの出題。 ・学習者は「アンケート機能」でクイズに答える。 ・一問ずつ開設の音声入りのパワーポイントで確認。（動画）
2	＊ここより以下は授業時間として確保せず、課題と帯単元の扱い **「俳句を創ってオンライン上で句会をしよう！」** ・課題の説明：1 をふまえた句作りをすることと投句の〆切り（4 日後）・条件等を知る。 ① 投句（送信）する ② 選句 無記名の俳句の清記用紙からいいと思った句を二句（そのうち一つを特選）選び、選んだものの句の番号と特選にしたものに、評（コメント）を書き送信。 ③ 結果発表 ＊選句の結果は、登校後、対面授業でいいコメントの紹介と選ばれた句の作者の生の声も聴ける状態で行う。	・ 投句は「アンケート機能」を使用して、無記名で教師に送信。 ・季語の参考のため国語のコースにネット歳時記の URL を張っておく。 ・授業の始めに教師が学年全員分の句をアトランダムに 30 句程度ずつPDF の選句用の清記用紙を送信。（4 回に分ける） 各回の清記用紙：無記名・通し番号付き ・「アンケート機能」で選句の結果を送信 ・教員による集計とコメントの整理をして表示。 ・コメント一覧は無記名でネット上に掲載。（作者は自分の句に送られたコメントを読むことができる）

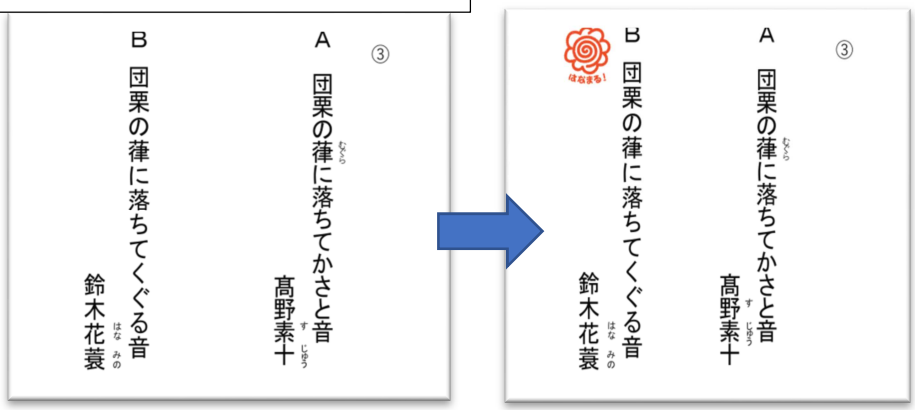
３．本単元の目標・評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
伝統的詩歌を、技法・決まり事、言葉の背景などを踏まえて読み、その世界に親しんでいる。 （３）ア	自分の思いがうまく伝わるよう、語句の使い方や表現の仕方を工夫している。B⑴ウ 他の人の作品を鑑賞し、表現の仕方について評価している。C⑴ウ	自分の思いが分かりやすく伝わるように工夫して定型詩を創り，他の人の作品を客観的に鑑賞し、批評する文章を書こうとしている。

４．生徒の学習の実際

資料１　クイズ動画のパワーポイント一部

始めに音読して句を紹介⇒答えと解説。



この「俳句クイズ」は、俳人の高柳克弘氏が、子どもの俳句教室でされていたもので、5 つのペアのクイズをやることで俳句の特徴が明確にわかるという仕組みになっている。ぴったりと目的に合った句を選んでシンプルでわかりやすい教材にされているので、ご本人に許可をいただいて授業で使わせていただいている。

資料２　　クイズを通しての学習に対する生徒の感想（一部　）

●今日が授業で俳句について学びました。くぐるという表現がとても意外で楽しかったです。
●最初のアンケートで二句を比較したときえ、何が違うの？と全然分かりませんでしたが、授業を受けて理解したと同時に自分の俳句に対する見方にも変化というか、より発展的なものが加わりスキルアップできました。
●どちらの句がより良いか考えるのが難しかったです。でも、説明を聞いて俳句を作るうえでのポイントがさらに良く分かりました。俳句を作るときに全部のポイントができているか確かめられました。
●オンラインで句会ができるなんてすごいなと感じます。ほとんど外出をしていないので、いつもよりも俳句を作るのが難しかったです。

資料３　　選句用の投句一覧一部抜粋

1 あじさいにまなびや思い友の顔
2 衣更切手の花も鮮やかに
3 バスタオル夏のベランダはためいて
4 新緑を今年はテレビで眺めてる
5 マスク取り踊る卯波と深呼吸新
6 前髪を不意に揺らすは夏の風
7 道端の誰にもみられぬ七変化
8 青嵐や悩み諸共吹き飛ばす
9 散歩道声かき消して青嵐
・ひまわりや元気に遊ぶ猫二匹
・一日中カーテンそよぐ夏めく日
・祖父母からマスクと共に夏野菜
・薫風や部活に別れ告げさせる
・庭の隅ためらい残した姫女苑
・自粛時の散歩途中は風薫る
・新緑の銀杏並木にはずむ声
・黄雀風自粛中でも活動中
・夏服の白日光に反射する
・俯いてお庭に集う紫蘭かな
・夏の夜寝ても寝付かぬ地獄の間
㉑いもうとがこいのぼり持ちかけ回る
㉒家からもかすかに香る夏の風
・鯉のぼり外出自粛で空をみる
・母親と思い出話衣替え

資料４　特選に選んだ句の生徒の評（コメント）の一覧の一部

（番号はその回の句の通し番号。投句一覧の番号と一致している。この番号の句を選んだ人の評が描かれている。）

22	私も最近、母と衣替えをしたのでとても共感しました。思い出を語りながらというのが素敵でいいなと思いました。
23	小さな手というのから小さい子供が母の日にプレゼントしようとカーネーションを買っている情景が想像出来て良いと思った。
23	他の句は夏そのもので、まだ自分が感じられない季節、もあったがこの句は母の日に、小さな子がお金を出してお母さんのためにカーネーションを買ってる姿が浮かんだ。最初が会話調なこともあり、より効果的に情景が浮かぶと同時に笑顔になれるようだった。
23	実際にこの前母の日でカーネーションを買いに行った為、俳句の様子が頭の中に思い浮かぶから
23	母の日に小さな子供が、カーネーションを買っている姿が微笑ましく描かれていていいと思った。
23	自分が言った「言葉」が入っていることで、情景が浮かんでくる。また、母への思いが伝わってくる良い句だと思ったから。
23	「これください」と小さな子が母の日の花を買おうとしている様子がぱっと目に浮かび、想像しやすい句だったから。
23	その光景が目に浮かび微笑ましく感じたから。口語を上手く用いているのが良いと思った。字余りだが、リズムが良いのがすごいと思った。
7	掃除の際に簡単にとっぱわれる蜘蛛の巣を「遺作」という言葉で蜘蛛の人生を讃えているようでとても素敵だったか　ら
8	普段なら窓を開けても何も感じないが、自粛中の今なら窓を開けただけで旅の気分になるというところに共感したから。
1	自粛の閉じこもった日常の中で、青い空と空を泳ぐ鯉幟の広々として動きのある風景を感じられるところがよいと思いました。

５．生徒の学習効果と展望

⑴　生徒達の句から（参考：資料３）22

・家にいることが多く、内省的になる機会が多かったせいもあるかのかもしれないが、これまでより、しっかりと周りを見て、じっくり向き合ったり、観察したりできていることがうかがえる。俳句的な視点でとらえようとしている。

・外出が制限されているコロナ感染下の社会や現状を取り入れつつも、季語や季節も大切にしている。例）祖父母からマスクと共に夏野菜　（マスクは本来冬の季語だが、夏野菜と夏の季語を持ってきて現状を詠んでいる。）

⑵　選に選んだ句の評（コメント）から（参考：資料４）

・よく俳句を読んで鑑賞できているコメントが多かった。表現と鑑賞は表裏というが、今回の生徒たちのコメントを読んで、鑑賞の力、表現する力が伸びてきていると感じた。教師と同じような視点でコメントしているものや、教師が気に止めなかったような視点で具体的に良さを発見しているものもある。（例えば 7 の雲の巣を「遺作」ととらえていることの着眼）また自分の体験に引き寄せて共感しているものも多い。しっかりと句を鑑賞し情景や心情を想像できているからだと思われる。

⑶　オンライン上の句会を通して

ほかの人の句へのコメントからも表現したい・語りたい思いが感じられた。俳句という表現媒体を通して、（相手の名前がわからなくても）交流ができている、他の人の作品に触れることで共感や鑑賞・表現の深まりが生じ、自分自身の作品への省察にもつながってていると感じられた。対話をする機会が長いことなかった状態の中であったので、タイミング的にこうした表現と交流を取り入れた学習はよかったのかもしれない。また、じっくりと句を考えたり、人の作品を向き合ったりする機会がもてて、それがより良い・深い鑑賞につながったと感じられ、遠隔学習として「表現」と「交流」を体験する教材としてオンライン句会に可能性を感じた

⑷　遠隔学習のシステムで普段より、より効果的であったと思われること

・1 クラスずつでなく、全学年全ての句を扱ったので短期間に何度も選句ができ、選句力・鑑賞力をあげることにつながったと期待される。探究的な学びにもつながっていると考えられる。

・オンラインのアンケート機能でたくさんの句やコメントをダウンロードして一覧にできることで、選の多かった作品に対するものだけでなく、全員のコメントをネット上に全て紹介できた。（無記名）教師自身も、それぞれの選句した生徒達の思いや視点を丁寧にみとることができた。普段教室で行う句会より短い時間で気軽にできると感じた。

⑸　今後の課題

オンライン上での作品による交流ができても、やはり最後は作者自身の生の声を相互に聞かせたいものである。今回は、句会の最後の発表の場面は、学校で対面授業の形で、選句結果を国語通信にしたものに示し、簡単に他の人のコメントを紹介したり、教師の選とコメント述べたりして、最後に選に選ばれた作者からの一言（どういう思いでこの句を創ったか）を語ってもらう時間をとることができた。こういう時間は大切だと考えるので、今後もし、対面での授業ができない状況が続くことがあれば、選ばれた句の作者からの一言をもらって、それをオンライン上で伝えるといったことも必要ではないかと思われる。また、生徒が投句した後の選句をするための教師が編集する清記用紙の PDF は縦書きであるが、生徒が投句したりコメントを書いたりするのは、システム上すべて横書きしかできないのでそこも国語という言語を扱う教科としては気になるところである。